

## 日系社会次世代育成研修

サンパウロ大学工学部環境学科

鑑野かおり

「じゃ、いってきます。」そう父と母に言い残して、私は日本へ発ちました。初めての海外、初めての飛行機での長旅、初めての日本。ワクワク、ドキドキ、色んな気持ちが入り混じって頭がついていかない。幼い頃からの憧れの日本にやっと、やっと行けるんだ。期待と緊張で、そしてちょっとした不安で胸がいっぱいでした。

日本に着き最初の印象とは「蒸し暑い」。そんな第一印象に続き、26日間色んな驚く事がありました。想像していたままの事もあれば、思いもしなかった事もありました。毎日新しい人に出会い、何か新しい事を体験し、知ってるようで知らない『日本』が次々と広がっていく。そしてちょっとずつ自分の中に何かが変わっていく、何かが生まれてくる。それは日系人という存在に対しての自分の考え方。

移住学習での先生が話したこと、「日系人とは何だろう」。日本人の血が繋がってなくても、『日系人だ』という意識さえあれば日系人なんだと先生は話しました。そんな風に考えたことがなかった。今まで多くの『非日系』の人と一緒に母校の日本語学校で勉強をし仲間になりました。だけど「非日系」と思っていた自分はその中でも大きな壁をつくっていたのではと今回初めて思いました。日本文化に興味をもって来て、日系社会の考え方や教育のし方を認めてくれて日本語学校に通っていたその人たちは私達と同じ日系人なのだ。先生の言葉はそう、一瞬でこの壁を壊してくれました。その想いを心の中にとめ今の日系社会を未来へと繋いでいかねばと思いました。

日系人という存在の意味だけではなく、日系人の歴史を私達は次へと伝えなければならない。小さい頃からおじいちゃんやおばあちゃんから聞いてきた移民の話をこれからは私達がまた次の世代へ伝えます。この歴史がなくなるならない為に、そして次世代がそれを忘れず心にもつように。

こうやって少しずつ自分の役目を理解してきた気がします。それと同時にブラジル人である事をまた強く思いました。州立の大学に通わせてもらいながら、ブラジル人でありながら、この国の為にこの先頑張らなきゃいけないと思いました。自分ひとりだけでは無力だと解っています。だからこそのような研修でいっぱい繋がりをつくって、ブラジル、中南米をよりいいところにする為力を合わせるのでは。大人はこれをネットワークと名付けますが、私達が26日間かけて築き上げたものは一生ほどけない強い絆だ。日本との架け橋だけではなく、中南米の国々の日系人たちともしっかり繋がるようになりました。

帰国し家族に言う「ただいま」はブラジルを出た時の「いってきます」と少しだけ違う気がしました。今の自分が一ヶ月前の自分と少しだけ違う気がします。



横浜国立大学での浴衣の着付け体験。祖父母からも伝わってきた日本の伝統をしっかり受け継ぎます。

日本の大学の色々な研究室でみた技術はブラジルの大学を通う学生達にも伝え、「日本ではこういった研究ができますよ」と日本での勉強を検討してくれればと思っています。

